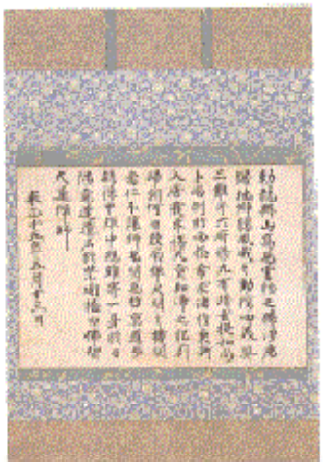
後柏原天皇御宸翰

【所　在　地】志布志市志布志町志布志２－１－19　大慈寺
【種　　別】県指定有形文化財（書跡）
【指定年月日】昭和 28 年９月７日



大慈寺は日本十刹（五山に次いで由緒ある寺）の一つで，慶応３（1867）年の廃寺まで 500 余年にわたって，南九州第一の臨済宗寺院として栄えた。開山（創立者）の玉山禅師は，京都南禅寺の開山大明国師につき，その法嗣（仏教の伝統を受け継ぐあととり）となった。のち，中国（元）に渡り天童山静慧禅師に学び，８年の修行ののち帰国して，志布志に大慈寺を開いた。

御宸翰（天皇がみずから書いた文書）のうち１幅は，後柏原天皇が玉山和尚へ下された「仏智大通禅師」の◆号（生前の行いを尊び，死後に贈られる称号）を，祠堂（先祖の霊をまつるところ）に掲げる額の文字として書かれ与えられたものである。押し紙に永正 15（1518）年仲秋（８月）20 日とある。縦 42cm，横 91.5cm。

他の１幅は，「仏智大通禅師」の◆号を与えたことを伝える勅書（天皇の意志を伝える公文書）である。縦 31cm，横 43.5cm。両方とも掛軸仕たてである。